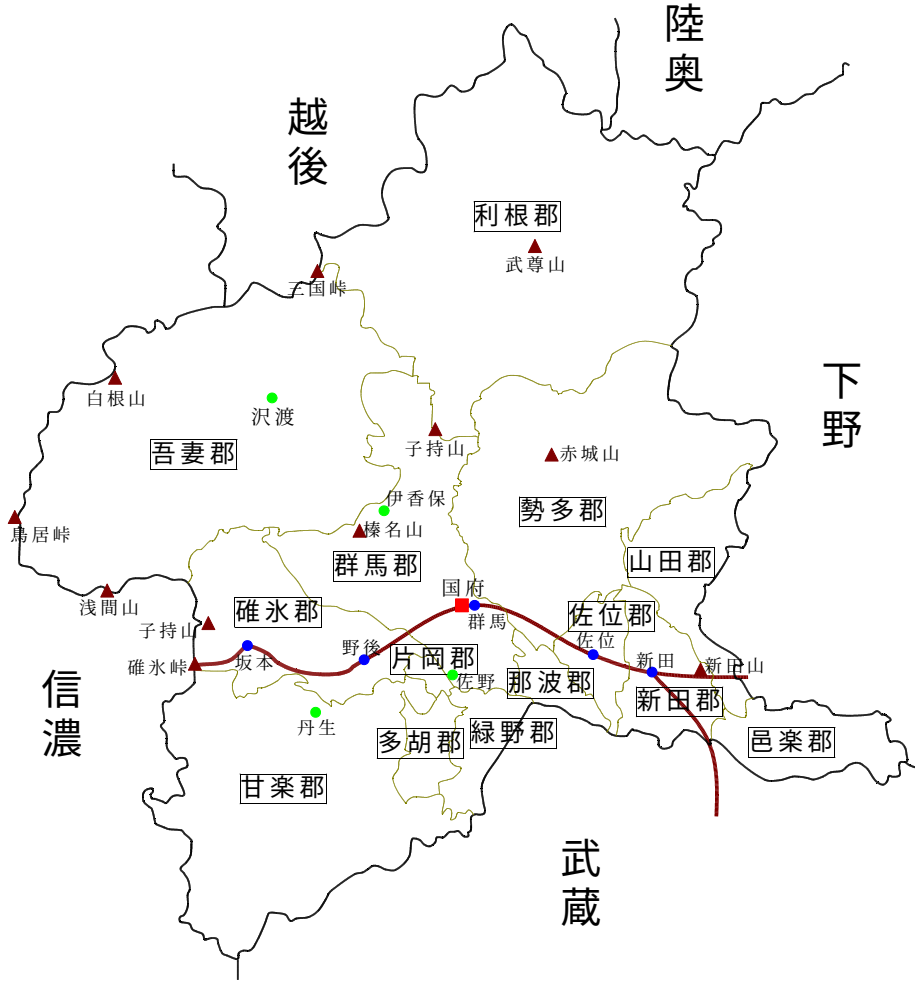
公開講座資料

「群馬の万葉歌」

平成十五年十一月二十九日　桐生市広沢公民館

群馬県立女子大学　北川和秀

古代の上野国



※郡界は寛文八年（1668）の上野国郷帳の村名に基づき推定した。

3402

日の暮(くれ)に碓氷(うすひ)の山を越ゆる日は夫(せ)なのが袖もさやに振らしつ

碓氷の山をあなたが越える日は、あなたも袖をはっきりとお振りになりました。

3404

上毛野(かみつけの)安蘇(あそ)の真麻(まそ)群(むら)かき抱(むだ)き寝(ぬ)れど飽かぬを何(あ)どか吾(あ)がせむ

上野国の安蘇の麻の束を抱きかかえるように、あなたを抱き締めて寝ても、それでもなお満足できない気持をいったい私はどうしたらいいのでしょうか。

3406
上毛野佐野の茎立ち折りはやし吾は待たむゑ今年来ずとも

上野国の佐野の青菜を折ってお料理を作り、私はお待ちしますわ。たとえあなたが今年はいらっしゃらなくとも。

3413
利根川の川瀬も知らず直渡り波にあふのす会へる君かも

利根川の浅瀬がどこなのかも考えずに、やみくもに渡って波を受けてしまったように、ばったりと出会ったあなたですこと。

3415
上毛野伊香保の沼に植ゑ小水葱かく恋ひむとや種求めけむ

上野国の伊香保の沼に植えている小水葱ではないけれど、私はこんなに恋に苦しもうとして、わざわざ種（原因）を求めたのだったかなぁ。

3417
上毛野伊奈良の沼の大藺草外に見しよは今こそ益れ

上野国の伊奈良の沼に生えている（まだ刈り取る前の）大藺草と同じように、あなたのことを傍らから見ていただけの頃よりも、恋人同士になった今の方が恋心は増していますものを。

3418
上毛野佐野田の苗のむら苗に事は定めつ今はいかにせも

上野国の佐野のたんぼの苗を使った占いで結婚を決めました。今さらどうにかできましょうか。（できないでしょう。）

3420
上毛野佐野の舟橋取り放し親は離くれど吾は離るがへ

上野国の佐野の舟橋をばらばらにしてしまうように、親は二人を引き離しますけれど、私はあなたと離れたりしませんよ。

3421

伊香保嶺(ね)に雷(かみ)な鳴りそね吾(わ)が上(へ)には故(ゆゑ)はなけども子らによりてそ

伊香保の峰に雷よ鳴ってくれますな。私にとっては別にどうということはないのですが、あの娘が怖がるものでね。

3422

伊香保風吹く日吹かぬ日ありと言へど吾(あ)が恋のみし時なかりけり

伊香保風は、吹く日も吹かない日もあると言いますけれども、私があなたを思う恋心ばかりは、止むときがありません。

＊参考歌

・韓亭(からどまりの)能許(こ)の浦波立たぬ日はあれども家に恋ひぬ日はなし

（巻十五・三六七〇）

3423

上毛野(かみつけの)伊香保の嶺(ね)ろに降(ふ)ろ雪(よき)の行き過ぎかてぬ妹が家のあたり

上野国の伊香保の峰に降る「雪」ではありませんが、たやすく「行き」過ぎることができない、あなたの家のあたりよ。

3540

左和多里(さわたり)の手児(てご)にい行き逢ひ赤駒が足掻(あが)きを速み言(こと)問はず来(き)ぬ

左和多里の乙女に出逢ったけれど、私が乗る赤毛の馬の歩みが速いので、言葉を交わさないまま来てしまいました。

3494

子持山若鶏冠木(こもちやまわかかへるで)の黄葉(もみ)つまで寝もと吾(わ)は思(も)ふ汝(な)は何(あ)どか思(も)ふ

子持山の若いカエデの葉が秋になって色づくまで、あなたと共寝をしていたいと私は思います。あなたはどう思います？

◎上野国の防人歌

4404 難波道を行きて来までと吾妹子が着けし紐が緒絶えにけるかも
右の一首は、助丁上毛野牛甘のなり。

4405 わが妹子がしぬひにせよと着けし紐糸になるとも吾は解かじとよ
右の一首は、朝倉益人のなり。

4406 わが家ろに行かも人もが草枕旅は苦しと告げ遣らまくも
右の一首は、大伴部節麻呂のなり。

4407 ひな曇り碓日の坂を越えしだに妹が恋しく忘らえぬかも
右の一首は、他田部子磐前のなり。
二月二十三日に、上野国の防人部領使大目正六位下上毛野君駿河が進れる歌の数は十二首なり。但し拙劣なる歌のみは取り載せず。

◎参考

1太政官奏すらく、「武蔵国は山道に属ると雖も、兼ねて海道を承けたり。公使繁多くして祇供堪へ難し。その東山の駅路は上野国新田駅より下野国足利駅に達る。此れ便道なり。而るに枉りて上野国邑楽郡より五箇駅を経て武蔵国に到り、事畢りて去る日に、また同じき道を取りて下野国に向ふ。今東海道は、相模国夷参駅より下総国に達るまで、その間四駅にして往還便ち近し。而して此を去り彼に就くこと、損害極めて多し。臣ら商量するに、東山道を改めて東海道に属らば、公私所を得て、人馬息ふこと有らむ」とまうす。奏するに可としたまふ。〈続日本紀宝亀二・一〇・二七〉

2東歌に多く詠まれている植物
麻…6、柳…6、稲…4、菅…4、おけら…3、松…3、葦…2、粟…2、葛…2、萱…2、橘…2、子水葱…2、小竹…2、榛…2、真木…2、藻…2、昼顔…2、薄…2、蕁菜…2

3万葉集全体で多く詠まれている植物
萩…141、梅…116、橘・花橘…107、菅・山菅…74、松…74、葦…55、茅・浅茅…50、柳・青柳…49、藤・藤波…44、桜…41

『万 葉 集』　東 歌 と 防 人 歌

◎万葉集巻十四（東歌）の配列

国名判明 ９０	雑　歌 ５	上総　１首 下総　１首 常陸　２首 信濃　１首	東海道 東山道
	相聞歌 ７６	遠江　２首 駿河　５首 伊豆　１首 相模　１２首 武蔵　９首 上総　２首 下総　４首 常陸　１０首 信濃　４首 上野　２２首 下野　２首 陸奥　３首	東海道 東山道
	譬喩歌 ９	遠江　１首 駿河　１首 相模　３首 上野　３首 陸奥　１首	東海道 東山道
国名不明 １４０	雑　歌 相聞歌 防人歌 譬喩歌 挽　歌	１７首 １１２首 ５首 ５首 １首	←ここにも上野国の歌とおぼしきものあり

合計　２３０首

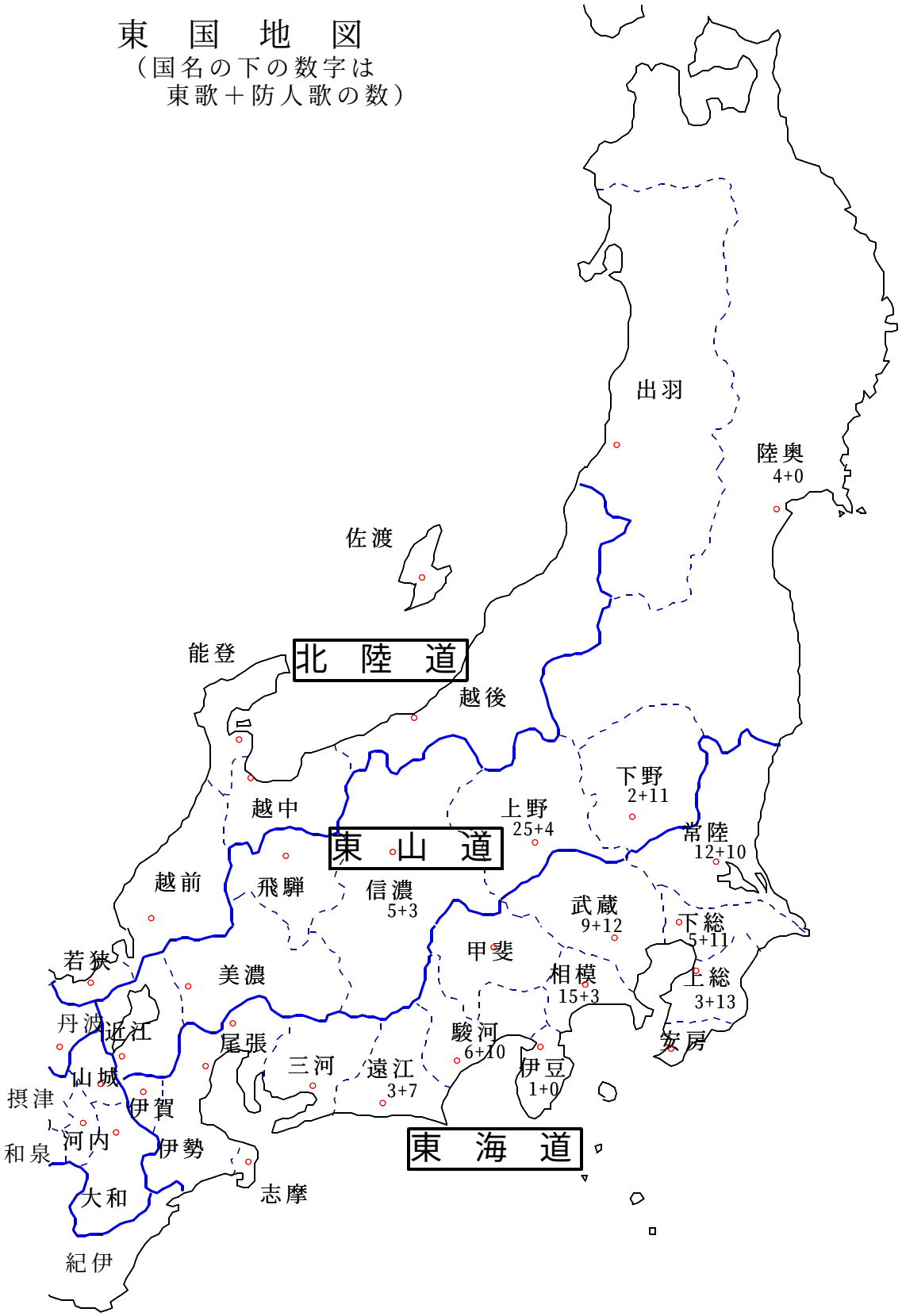
◎万葉集巻二十・防人歌

①天平勝宝七歳乙未二月、相替りて筑紫に遣はさるる諸国の防人等の歌

遠江国	７首／１８首	８４首／１６６首
相模国	３首／　８首	
駿河国	１０首／２０首	
上総国	１３首／１９首	
常陸国	１０首／１７首	
下野国	１１首／１８首	
下総国	１１首／２２首	
信濃国	３首／１２首	
上野国	４首／１２首	
武蔵国	１２首／２０首	

②昔年防人……８首

合計　９２首

東　国　地　図

（国名の下の数字は
東歌＋防人歌の数）